

人文社会系

## 人的資産の管理と管理会計： 統合的業績管理に向けて

法経学部経済学科・准教授 内山 哲彦



### 研究の背景

管理会計とは、主として企業における経営管理に有用な会計情報の作成・伝達や、会計情報を用いた経営管理を対象とする研究分野で、財務会計と並んで、会計学の大きな2つの研究分野の1つです。管理会計の研究では、会計の仕組み自体の理解の上に、その情報利用の場であるさまざまな経営管理領域について研究することになります。私は、なかでも会計情報を用いた業績管理と人材の管理との連携（これを統合的業績管理と呼んでいます）に研究上の関心を持っています。

企業における人材の管理は、人的資源管理という1つの研究分野として確立しています。しかし、会計を中心とする業績管理と人的資源管理とは無関係ではありません。特に近年では、知識社会への移行や経営戦略の重要性の高まりなどを背景に、両分野にまたがる学際的課題の研究の重要性が高まっています。人的資源管理の分野では、戦略遂行に役立つ人材の獲得・教育や動機づけ、戦略遂行に資する人的資源管理の仕組みについて研究が進められています。管理会計の分野では、人材の持つ知識やスキル、動機づけを無形の資産（インタンジブルズ）である人的資産としてとらえて、それをどのように戦略遂行や企業業績・企業価値の向上につなげるか、研究が進められています。

### 研究の成果

はじめに、業績管理における動機づけの観点から、業績管理と報酬制度とのリンクについて研究を行いました。日本の多くの大規模企業では、2000年前後に、業績と報酬とを連動させる仕組みの導入が進められました。社会では、1990年代以降の経済不振とかかわらせて、報酬削減の手段としてとらえられることもありました。そのような企業実務も存在する一方で、経営環境の変化への組織的対応を実現する手段として、それらと連携させて報酬制度の変更を行う企業実務についても分かってきました。

次に、業績管理における人材育成の観点から、業績管理と採用・教育研修制度とのリンクについて研究を行いました。人的資産を戦略遂行に結びつけるさまざまなモデルの意義や、業績管理と教育研修制度とを有機的に連携させる企業実務について分かってきました。一方で、人的資産にかかわる貢献性の分類や、近年の従業員や雇用形態の多様化がもたらす問題など、多くの研究課題も明らかになりました。

### 今後の展望

現在は、人的資産にかかわるさまざまな測定の有効性について多面的に研究しています。統合的業績管理の仕組みの一層の拡充と精緻化に向けて、これまでと同様に他分野の研究者や企業実務家とも協力しながら、研究を進めていきたいと思っています。

#### 【支援を受けた科研費等】

- 平成19～21年度 科研費 若手研究 (B) 「成果主義に係わる新たな業績評価制度及び会計情報利用の実態と理論」
- 平成22～24年度 科研費 若手研究 (B) 「インタンジブルズとしての人的資産の管理を含めた統合的業績管理システムの実態と理論」
- 平成25～27年度 科研費 基盤研究 (C) 「人的資産にかかわる財務的及び非財務的測定に関する理論的・実証的研究」